

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ② A 話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ③ B 書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④ C 読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の低かった設問
3 二 島谷さんは、川口さんと伝え合ったことをもとに、自分の文章のよさをふり返り、書くことにしました。あなたが島谷さんなら、どのようなよさを書きますか。次の条件に合わせて書きましょう。
- ・次に正答率の低かった設問
1 四 岡さんは、【話し合いの様子の一部】の□で「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで話そうとしています。あなたが岡さんならどのように話しますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

分析

国語は全般的に概ね良好な結果であった。無解答率においては全国平均より低い結果となった。また、全国平均と比べると「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題では良好な結果が見られた。昨年に引き続き、相手を意識し、他者を理解しながら自分の考えをまとめることができるのは、本校の努力目標である「お互いを認め合い、自信を持って表現できる子どもの育成」を教職員が意識して、継続的に教育活動を行った結果が表れていると考える。

一方、全国的な傾向と同じく、与えられた条件に合わせて自分の意見を表現することに課題がある。日常的に、ふりかえりを書く時など、条件を提示し、条件にあった作文を書く機会を増やしていく必要がある。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|------------|-------------|
| ① A 数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ② B 図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③ C 測定 | 概ね良好な結果であった |
| ④ C 変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ⑤ D データの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の低かった設問

2 (3) (りんごの果汁が20%含まれている飲み物が500mLあります。) 250mLは、500mLの2分の1の量です。このとき(ア)アにあてはまる分を選びましょう。

分析

算数は、全ての領域において概ね良好な結果であった。これは、3年・4年の習熟度別少人数指導、スクールサポーターの入り込み支援や教職員同士の児童実態理解、指導方法の連携により、個に応じた指導、基礎的・基本的な知識、技能の定着を図ってきた結果が表れていると考える。また、全国平均と比べると、プログラミングの領域では、良好な結果が見られた。一人一台のタブレット端末が支給されたことにより、タブレットに慣れ親しむことができている。また、タブレットを使って製作する活動を継続的に行うことで、プログラミングに必要な思考が定着してきていると考える。また、ペア活動やグループ活動等の学びあい活動を重視したこと、問題解決的な授業を進めてきたことで、問題に対して粘り強く取り組むことができていると考える。

一方、数量がかわっても割合は変わらないことを理解しているかを問う設問では課題が見られた。問題文を読むだけでなく、何を問われているのかについて考える力の育成が必要だと考える。タブレットを活用するなどの発信力の育成だけでなく、受け取る力の育成も同様に取り組んでいく必要がある。今後も、児童の主体的な学びを促す授業づくりや学び合う活動を取り入れた、「一人も見捨てない」授業づくりを意識して教育活動を行っていきたい。

○●理科●○

(領域ごと)

- | | |
|---------|-------------|
| ① エネルギー | 概ね良好な結果であった |
| ② 粒子 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 生命 | 概ね良好な結果であった |
| ④ 地球 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・最も正答率の低かった設問

3 (4) はなこさんが、下線部のようにまとめたわけを上の結果を使って書きましょう。

分析

全ての領域において概ね良好な結果であった。4年時より、専科の教員が専門的に指導することで、より多くの実験を行うことができたと考える。また、実験の際の予測・考察・検証を丁寧に行うことで、科学的な思考を養うことができた。日常的な授業の中で、なぜ？どうなる？といった、疑問や予想を大切に授業づくりを行ってきたことも、良好な結果へとつながっていると考える。

一方で、国語の「書く」領域と同様に、自分の考えをまとめることは比較的得意であるが、条件を使って自分の意見をまとめることは課題である。実験に対して、自分の考えをまとめる取り組みを引き続き行っただうえで、設問のような思考を行う取り組みも行ってきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・各年度によつての差はあるが、国語算数とも全国平均を基準とすると平均正答率は概ね良好な状態が続いている。
- ・算数では、ほぼ全領域が全国平均を上回っている。習熟度別少人数指導やスクールサポーターの積極的な活用、問題解決を中心とした授業づくりなどの成果が表れていると捉えることができる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層(EP層)についての分析

- ・国語・算数ともに、学力高位層が増加し、学力低位層が減少している。
- ・国語において、前年度よりEP層の減少傾向が見られた。国語・算数ともに全国平均と比べるとEP層の割合が非常に低い。引き続ききめ細やかな指導を行い、学力の底上げを図っていきたい。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

① 授業改善

- ・学びあう活動を取り入れた、「一人も見捨てない」授業づくり
(ペアやグループ、全体での話し合い活動などを通して意見を交流することで学びを深める)
- ・児童の主体的な学びを促す授業づくり
- ・全学年校内公開授業研究会実施
- ・校内公開授業実施
- ・パワーアップ研修会(専門的な教育技術の共有化)
- ・3, 4年算数習熟度別少人数指導の充実

② 基礎学力の向上

- ・「漢字学習」「ことばあつめ」等の取組み
- ・読書好きな児童を増やすための取組み
- ・学校図書館支援員と連携した学校図書館の効果的活用(蔵書・配架の工夫)
- ・図書室使用などを通して読書の機会の設定及び読解力や書くための前段階としての個人で考える力を養う。

③ 全校での取組み

- ・スクールサポーターとの丁寧な連携、習熟度別少人数学習などを通して個に応じた支援、指導を充実させる。
- ・学び合える集団づくりをすすめるために、自分も他者も大切に思う気持ちを養うことを重視する。
- ・異学年交流や異年齢活動の中で、子どもたちのコミュニケーション力や人と関わる力、自己有用感などを高める。
- ・これまで継続してきた学校行事を大切に、ねらいを明確にした計画的な行事の取組みで、子どもたちに達成感を持たせ、集団の高まりや個人の成長を促す。
- ・学校として『自分のことを他者に伝えられる表現力～書く力～』を研究テーマに公開授業研究会や研修会を実施する。全学年でふりかえり活動を行い、書く時間の保障をおこなう。